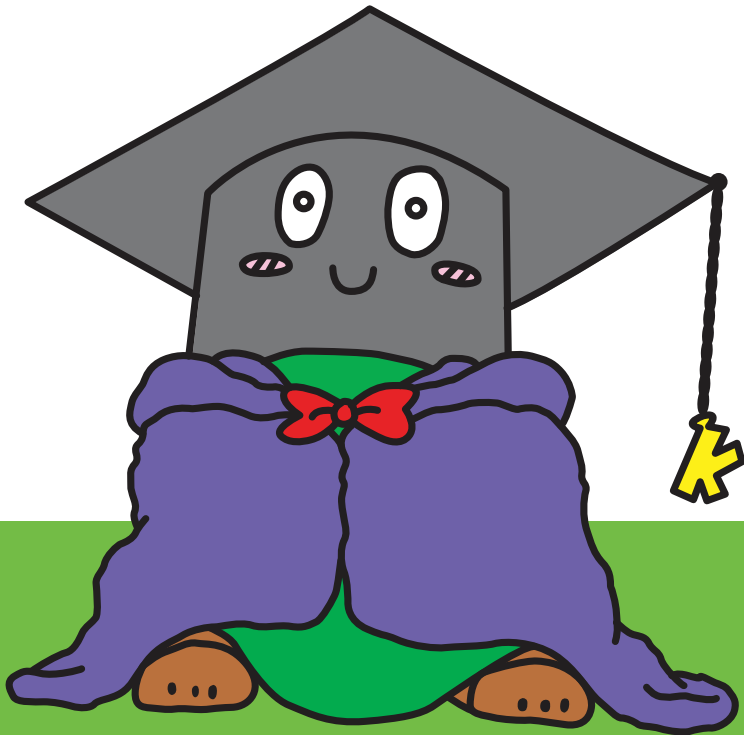


きつず  ユニバ

探究のすすめ

探究旅行のサポートブック

保護者
用





「きっず☆ユニバ」へ ようこそ!

～ 子どもと一緒に、
「ホンモノ」に出合う旅に出かけませんか?～

「きっず☆ユニバ」は、子どもたちの新しい発見や驚きとの出会いがあるところです。学びのキャンパスは、岡山県内の文化・社会教育施設（連携施設）です。

子どもたちは、学びのスタートキットを片手に、「ホンモノ」に出合う旅に出かけます。子どもだけでなく、大人の皆さんも、気になったホンモノをじっくり見たり体験したりしてみてください。そして、その時感じたことや思ったこと等、子どもと一緒におしゃべりしてみてください。そうすることで、子どもも大人も、新しい出会いや発見ができるはずです。

きっず☆ユニバはそんな出会いや発見を応援します。そして、はじめの素敵な出会いや発見が次につながり、さらに次へと……。そんな姿をめざしています。

さあ、子どもと一緒にホンモノに出合うはじめの一步を踏み出しましょう!

きっず☆ユニバ「スタート・キット」

子どもの学びを
サポートする

5つのアイテム

子ども用のきっず☆ユニバ
ガイドブック。施設に出か
けるための準備や、施設の
中で使うブックです。

探究の すすめ



旅の あしあと

施設での学びを記録する
ノート。子どもが感じたこ
と、発見したことなど、自
由に記録できます。

メモをとったりスケッチしたり
するときに役立つバインダー。
チケットなど、思い出のものを
入れることもできます。

ユニ バインダー



ユニ バッグ

探究のすすめ、旅のあしあと、
ユニバインダー、小さい筆箱を
入れるバッグ。バッジをもら
うときは、このバッグが必要。

各施設のイメージがデザインされた
バッジ。バッジを集めることで、子
どもの意欲が高まります。

ユニ バッジ



9つの連携施設 MAP



津山郷土博物館



岡山県古代吉備文化財センター



岡山県生涯学習センター
人と科学の未来館サイピア



岡山県立美術館



岡山県自然保護センター



特別史跡旧閑谷学校・
岡山県青少年教育センター閑谷学校



特別名勝岡山後楽園



岡山県立博物館

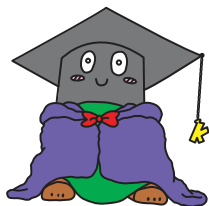


岡山県立図書館



プロセス1 旅へ出かける前に…

各施設に出かける前に必ずしておきたいことは、子どもにその施設に行く目的をもたせることです。「これ、見てみたい!」「楽しそう!参加したい!」「おもしろそう。やってみたい!」など、目的をもって各施設に行くことで、その場での出会いの感動がより高まったり、モノ・コトを深く見ることで、新たな発見につながったりします。



そのために・・・

●「探究のすすめ」を読んでおこう!

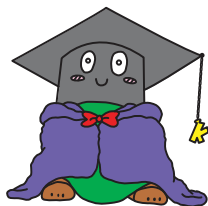
各施設のガイドページには、「探究のヒント」や「きっず☆ユニ日」など、施設に出かけるときに役立つ情報が掲載されています。開館(開所・開園)時間や休館日(休所日)も、確認できます。

●ホームページを見ておこう!

各施設のホンモノ体験ができる「きっず☆ユニ日」は、ホームページで確認できます。ガイドブックに掲載されていないものや、より詳しい内容が掲載されているものもあります。事前申込みが必要な場合もありますので、確認してください。

プロセス2 施設の中では…

モノ・コトと出合ったときに、心の声に耳をすましてみるのが大切です。心の声に耳をすますとは、「あっ、これ、すてきだな。」「ここ、おもしろい!」「不思議だな。」など、何かを感じたり思ったりすることです。耳をすますのは、子どもだけではなくありません。大人も、子どもと一緒に耳をすましてみてください。今まで気付かなかった発見や驚きなどに出会うことができるはずです。



そのために・・・

●じっくりと時間をかけよう!

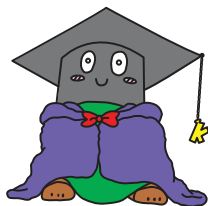
一つの展示物の前で立ち止まってじっくりと見る、見つけた生きものをよく観察する、気に入ったことを何度も体験するなど、施設の中では、焦らずゆったりと過ごしてください。ときには、子どもと大人でその時の思いを会話したり、一緒に体験したりしてみてください。

●その日の出合いは、一つでも大丈夫!

各施設には、様々な展示物があったり、いろいろな体験ができる活動があったりします。1日で、全部の展示物を見たり多くの体験をしたりすることができなくても、かまいません。一つでもよいので、心の声に耳をすますことのできる体験をしてください。その体験の積み重ねが、子どもの興味や関心を育てることにつながります。

プロセス3 旅の足跡を残す…

施設に行ったときのことをノートに記録し、振り返りをするのが大切です。子どもが、自分の感じたことや思ったことと向き合い、もう一度確かめることで、そのときの思いがより深まります。いろいろな施設の記録が増えてくると、子どもの意欲が高まるだけでなく、それぞれの施設の特徴や素敵なおところ、自分の気に入っているポイントなどにも気付くことができ、新たな発見につながることもあります。



そのために・・・

●記録したくなる手助けをしよう！

鑑賞や活動したことのパンフレットやチラシ、撮った写真など、記録するための素材があると子どもの意欲も高まります。子どもが自由に選ぶことができるように、素材を集めるための手助けをしてください。

ノートは見開きで使うと、のびのびと書くことができます。また、出かけた施設や日付を書いておくと、後で見たときに分かりやすくなります。子どもが、ノートの使い方で困っているときは、声をかけてください。

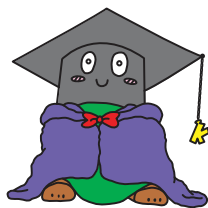
●語り合ってみよう！

各施設で見たこと、したこと、感じたこと、思ったことなど、子どもと語り合ってください。その時のことが思い出されて、記録するときの手助けになるはずです。

プロセス4 つながりをつくろう…

施設に行ったときに、同じバッグを持っているユニ生（「きっず☆ユニバ」受講生）に出会うことがあると思います。そんなときは、ぜひ声をかけてください。おすすめのきっず☆ユニバや心に残ったモノ・コトなど、会話をすることで新しいつながりが生まれます。学校以外の場で新たな仲間ができると、学びがさらに広がります。

また、ユニ生同士の交流を図ったりユニ生だけのお楽しみイベントを体験したりできる「わくわく☆ユニ会」の開催を予定していますので、ぜひご参加ください。



そのために・・・

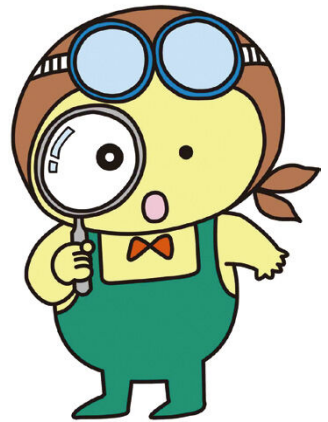
●「学び」や「人」をつなげよう！

ある施設で見たこと、したこと、感じたこと、思ったことなどの「学び」が、他の施設の「学び」とつながることがあると思います。そのことに子どもが気づいていないなと思ったときは、声をかけてください。そうすることで、子どもは一つ一つの「学び」がばらばらなのではなく、どこかでつながっていることに気づくことができ、学ぶ楽しさやおもしろさをより強く感じるはずです。

また、子どもがユニ生に出会って、なかなか話しかけられない時には、一緒に声をかけてみてください。「きっず☆ユニバ」の「学び」を楽しんでいる仲間とのつながりが、学ぶ気持ちの高まりや一緒に学んでいる者同士の一体感を生むことにつながっていきます。

~ ✕モ ~

夢育



アート・ディレクション

橋ヶ谷佳正／元岡山大学大学院教育学研究科 教授

デザイン（ロゴマーク&キャラクター）

越智美咲 小島 泉 済川結香 風早真理 額田喜美子 矢野壮一朗 菅野千裕 藤原旺希 土倉浩二郎 仲本瀬莉奈
金坂穂乃華 元田知里 大谷咲也夏 佐々木優希 伊藤香織 蘭 文慧（順不同）／岡山大学教育学部生

